

# セントレアの気象（秋号）

2022年（令和4年）11月

## 目次

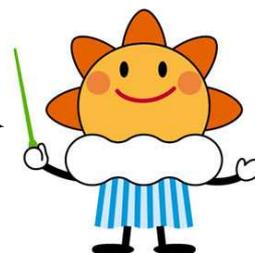
2022年にセントレアに影響を及ぼした台風について・・・・・・・・・・1～3



中部航空地方気象台の観測風景です。  
天気現象や雲量・雲形、視程などを観測しています。

中部航空地方気象台は、正確な気象観測の通報や適時適切な飛行場警報や予報の発表などを通じて、セントレアに離着陸する航空機や空港に関するみなさまの安全を、24時間365日守っています。

本年度も、気象庁並びに当台の実施する航空気象業務に対するご理解とご協力をどうぞ宜しくお願いします。



はれるん

気象庁マスコットキャラクター



**中部航空地方気象台**  
Chubu Aviation Weather Service Center

## 2022年にセントレアに影響を及ぼした台風について

10月27日現在、台風は第22号まで発生しています。昨年、1年間で22個まで発生しました。台風発生数の平年値（1991年～2020年の30年平均）は、下表のとおり25.1個です。10月時点で考えると、今年もおおむね平年並みに発生数となっています。

中部航空地方気象台では、台風の接近に伴ってセントレアに影響を及ぼすと考える場合は、台風説明会を開催し、空港関係者のみなさまへ台風の現状や予想をお伝えし、注意を呼びかけます。今年、台風第11号及び第14号について開催しました。

<2022年の台風の発生数（2022年11月1日現在）（気象庁HPから引用）>

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2022				2		2	2	5	7	5			23

<台風の平年値（気象庁HPから引用）>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数(注1)	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
接近数(注2)				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
上陸数(注3)					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0

(注1) 「発生」は協定世界時(UTC)を基準にしています。

(注2) 「接近」は台風の中心が国内のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を指します。

(注3) 「上陸」は台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指します。

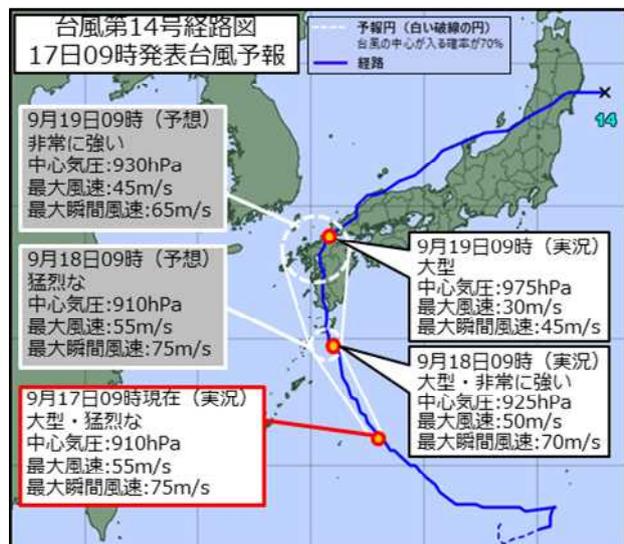
ここでは、セントレアに影響のあった台風の中で、台風第14号について振り返ります。

台風14号は、大型で非常に強い勢力で鹿児島市付近に上陸し、19日朝にかけて九州を横断し、その後進路を東よりに変え、20日09時（以下、日本時間）に日本の東で温帯低気圧に変わりました。九州を中心に西日本では、記録的な大雨や暴風となり甚大な被害を受けました。セントレアでは多くの航空機が欠航し、空港へのアクセスのための交通機関が運休するなど、空港利用者に大きな影響が出ました。

### ・概況

第1図では、台風第14号の経路図（速報値）に17日09時に発表した台風予報を重ね合わせて示します。

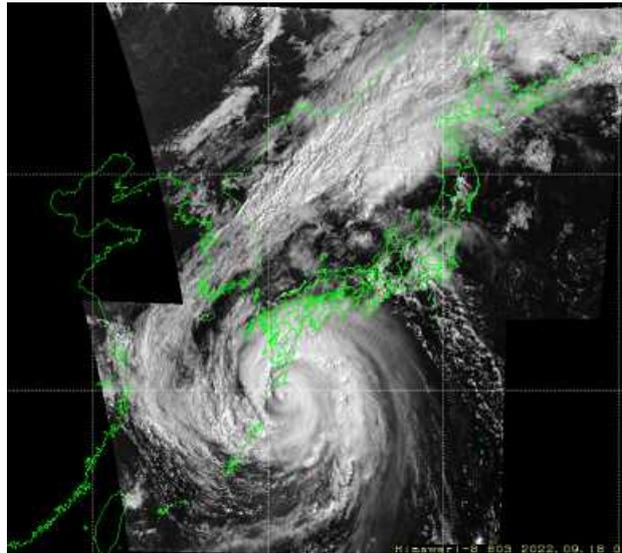
大型で非常に強い台風第14号は、18日17時半頃に鹿児島県指宿市付近を通過し、18日19時頃に鹿児島市付近に上陸し九州を北上しました。19日00時頃には大型で強い台風となり、次第に勢力を弱めて、19日09時頃下関付近で大型の台風に変わりました。その後、中国地方を北東へ進み、19日16時半頃に島根県出雲市付近を通り、山陰沖から日本海中部へ進みました。台風は、19日23時頃にセントレアに最も近付



第1図 台風第14号の経路図（速報値）

き(セントレアの北北西230km付近を通過)、20日04時過ぎに新潟市付近に上陸後、速度を上げて東北東へ進み、9月20日09時に三陸沖で温帯低気圧に変わりました。

第2図に、18日09時のひまわり8号による可視画像を示します。台風を中心付近に見られる円形状の白い雲域(アイウォール)は、台風を中心を取り巻く積乱雲域で、雲頂が高く発達しています。この雲域が整った円形状を呈していることは、台風が強い勢力を維持していることを示しています。また、円形状の積乱雲域の北側にも発達した対流雲(アウターバンド)があり、九州と四国地方の一部にかかっています。



第2図 ひまわり8号可視画像(18日09時)

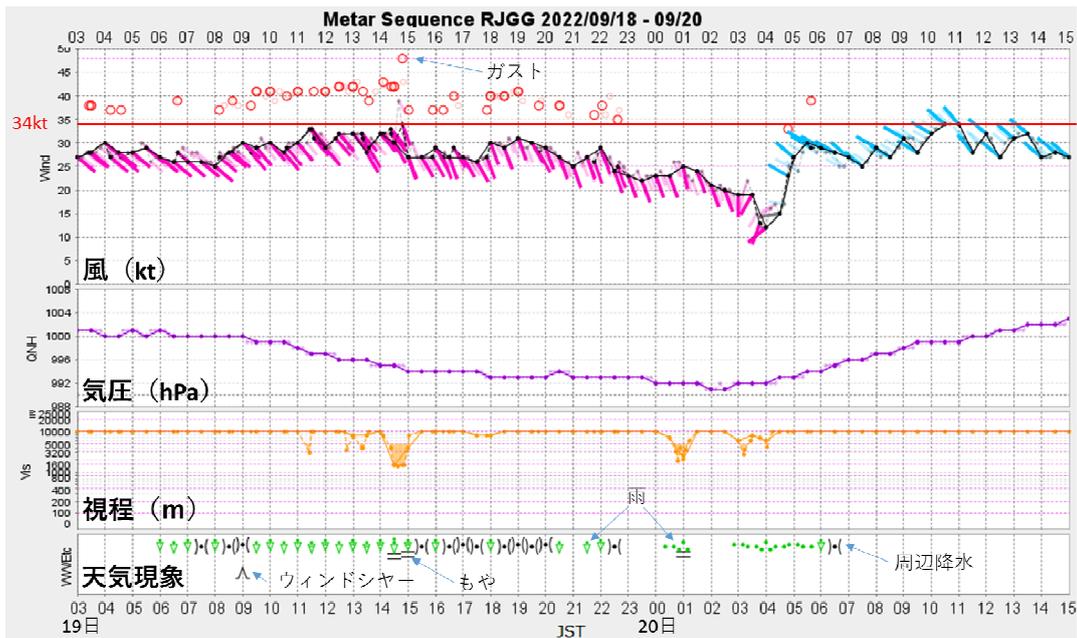
・セントレアでの交通への影響

18日から19日にかけてセントレアを離着陸する航空機の欠航が相次ぎ、19日は122便、20日は26便が欠航となりました(関西空港事務所調べ)。空港へのアクセスとなる交通機関は強風のため、名古屋鉄道が19日18時頃から最終まで運休し、定期船(津エアポートライン)は19日から20日にかけて全便欠航となりました。中部国際空港連絡道路の通行止めはありませんでした。

・セントレアの気象経過

第3図に、19日3時から20日15時までのセントレアにおける気象経過を示します。

風については、セントレアでは、台風の接近に伴い19日04時頃から南東の風が30kt前後となり、11時半頃に飛行場強風警報の基準である34ktに達しました。14時38分に最大瞬間風速48ktの南南東(151°)、14時39分に最大風速39ktの南南東(150°)を観測しました。その後、台風は山陰沖から日本海中部を東北東進し、22時過ぎから25kt前後となり、20日04時頃には風速が15kt前後まで弱まりました。その後、西北西の風に変わって吹き返しの風となり、05時頃には30kt前後に強まりました。10時過ぎに最も強まり34ktの北西(310°)

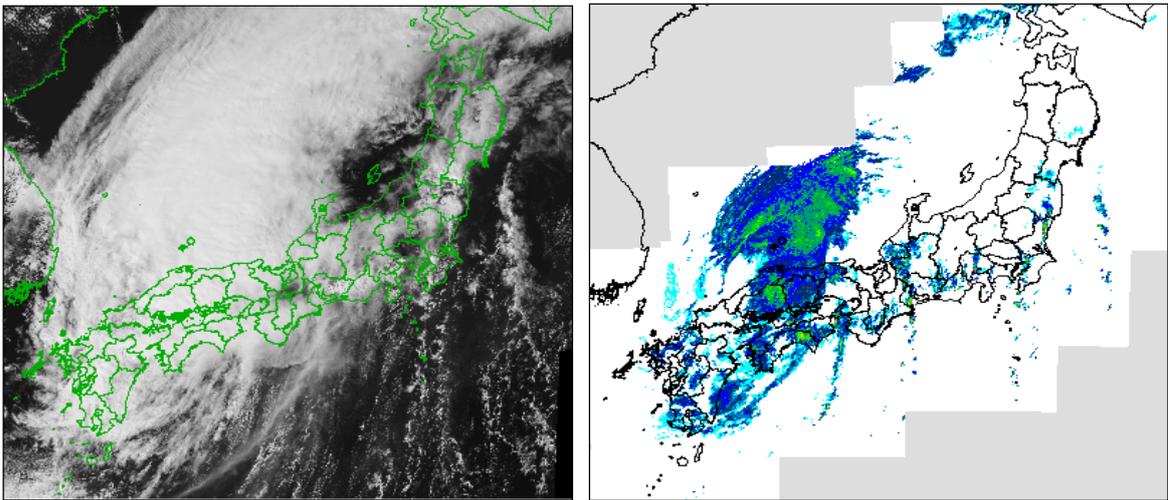


【第3図】セントレアでの気象経過(9月18日03時から20日15時)

を観測したあと、14 時頃までは 30kt 前後の風が続きました。

雨については、セントレアでは、台風がやや離れた北側を進んだこともあり、台風を中心付近の強い降水域はかかりませんでした。19 日午後、台風の南東側にある南北にのびる対流雲（アウターバンド）の影響で、一時的に強い降水は観測されましたが（第 4 図）、19 日の日降水量は 9mm でした。

視程は 19 日 14 時 38 分に雨の強まりともやにより 1400m を、最低気圧は台風最接近後の 20 日 02 時 10 分に海面気圧 991.8hPa をそれぞれ観測しました。



第 4 図 19 日 14 時 30 分の衛星可視画像（左図）と気象レーダー降水強度（右図）  
台風は中国地方にあり、その南東側にあたる太平洋側では、四国沖から四国付近にかけて、紀伊水道付近、紀伊半島の南東海上から伊勢湾にかけてなど、南北にのびる発達した降水域が何本か確認できます。

#### ・まとめ

台風第 14 号は、9 月 18 日 19 時頃に非常に強い勢力で鹿児島県に上陸し、九州を中心に大きな被害をもたらしました。鹿児島県に上陸する際の気圧は 935hPa でしたが、これは上陸時（直前）の気圧としては、1951 年以降では 4 番目に低い気圧でした。その後、台風は予報円の中の東寄りの進路をとって、九州の陸上を北上したことから、当初予想していたよりも早く勢力が弱まりました（第 1 図）。またその後、中国地方から日本海を進みましたが、日本海は海面水温は、太平洋側に比べると低いこともあり、台風の勢力は徐々に弱まりました。このこともあり、セントレアでは、台風が最接近した時刻よりも早い 19 日昼過ぎを中心に最も風が強まりました。

編集 : 中部航空地方气象台  
発行 : 中部航空地方气象台  
発行日 : 2022年(令和4年)11月2日  
〒479-0881  
常滑市セントレア一丁目1番(大阪航空局中部空港事務所庁舎)  
TEL 0569-38-0002  
中部航空地方气象台ホームページ  
<https://www.jma-net.go.jp/chubu-airport/>